

所 信 表 明 要 旨

7月臨時会

令和8年(2026年)7月 15 日

令和8年7月臨時会の開会に際し、令和8年度補正予算案およびこれに関連する諸議案を提出し、ご審議いただくにあたり、私の市政運営に対する所信を申し述べます。

私は、先の市長選挙において市民のみなさんのご信託をいただき、第26代豊中市長に就任しました。これまで積み重ねてきた取組みをさらに前へと進めるべく、緊張感をもって新たな任期をスタートしたところです。

これまで2期8年、地域をくまなく回り、暮らしの現場に接する中で、市民のみなさんから、まちの将来への期待や市政に対する要望など、時には厳しいお声も含めて、様々なご意見をお聴きしてきました。私がいつも感じるのは、豊中が大好きで、地域を良くしていくために協力を惜しまない、みなさんの温かいお気持ちと行動力です。豊中に住まうことへの愛着と誇りが、豊中ならではの、まちの特性を育み、揺るぎないシビックプライドとして根付いていることを実感します。

豊中市が誕生して今年で90年。豊中のまちは、いつの時代も「人」が中心であり、人が豊中の財産です。先人から受け継いできたこのまちを、次の世代へ、さらにその先の未来へとつないでいくための市政

の舵取りを、引き続き託していただいた。その責任の重さを改めて深く感じ、不惜身命の覚悟をもって、市民のみなさんと一緒に未来を切り拓いていく所存です。

今、日本は人口減少が進み、人口構造の大きな転換期にあります。出生数の減少に歯止めがかからず、2030年には高齢化率が30%を超え、2040年代には高齢者数がピークを迎えることが予想されています。これまで経験したことのない社会の到来がすぐそこに迫っています。将来にわたって、豊中が、住みたいまちとして選ばれ続けるためには、市民のみなさん一人ひとりの幸せを追求し、誰一人取り残さないまちを創っていくことが大切であると考えます。

先日公表された令和7年の国勢調査の速報集計では、多くの自治体において人口が減少している中、本市の人口は40万4千479人と、5年前の調査と比べて2千921人増加しました。この間、出生数は減少傾向にあるものの、子育て世代を中心に、転入者が転出者を上回る社会増が続いています。転入者へのアンケートでは、本市を選んだ理由として、「子育て・教育環境が良い」との回答がここ数年、上位に挙がるようになりました。「子育てしやすさ NO.1」を打ち出し、子育て世代が住み続けたいと思うまちづくりに戦略的に取り組んでき

たことへの評価であると受け止めています。

3期目の市政運営においては、私の市長就任以来の基本理念である「創る改革」をさらにシンカさせます。すなわち、これまでの取組みを変化させ、バージョンアップさせ、新たな価値を生み出すことにより、豊中を次のステージへと押しあげていくための挑戦です。”ワンランク上”をめざし、豊中を発展・成長させてまいります。

そのために、市民のみなさんとお約束した政策の実現に向けて、五つの柱と80の取組み項目から成る、基本政策をまとめました。

財源の見通しをつけながら、任期中に計画的に取り組み、完遂することをお約束します。

まず、優先的に取り組む課題が三つあります。

一つめは、「物価高対策」です。

私たちの暮らしを取り巻く経済情勢は、景気がゆるやかに回復しつつあり、実質賃金は5か月連続プラスとなっています。一方で、物価高騰や原材料不足が、市民生活や事業活動に影響を及ぼしています。現在、マチカネポイントを活用して、家計と地域経済への支援を実施しているところです。これに加え、生活困窮者への支援策を講じ

てまいります。

二つめは、「子育て支援」です。

少子化は極めて深刻な状況にあります。その危機感から、本市の発展・成長戦略として「子育てしやすさ NO.1プロジェクト」を打ち出し、子育てに対する精神的・経済的な負担感を軽減し、子育て世代が安心して子どもを産み育てられるようにするなど、こども政策に重点的に投資してきました。その結果、20代から30代の転入者が増加するなど、多くの子育て世代に豊中を選んでいただいています。より多くの方に「子育てするなら豊中」と共感いただけるよう、今後さらに本プロジェクトをバージョンアップし、新たなパッケージで取り組みを展開します。

三つめは、「千里中央の再整備」です。

千里中央は豊中の都市ブランドを代表するエリアです。新たな“せんちゅう”にふさわしい魅力ある商業施設やオフィスを誘致します。同時に、市としても、隣接する千里東町公園と千里中央公園に民間活力を取り入れながら、子どもから高齢者まで多くの人が憩い、集い、心が潤う都会のオアシス空間として大胆に刷新します。都市と緑、水辺の空間が調和した、千里中央だからこそ実現できる、未来を先取

りした都市拠点を創りあげてまいります。

続きまして、基本政策の五つの柱に沿って、主な取り組み内容をご説明いたします。

〔１．子ども・教育政策〕

一つめは、「子ども・若者・子育てを応援するまち」です。

子どもや若者が将来に夢と希望を抱き、子育て家庭がゆとりを持って安心して子育てができるまち。次代を担う子どもたちを社会全体で育むまちの実現こそ、豊中の未来への最大の投資です。子どもをまんやかに据え、生まれる前からの切れめのない支援体制を整え、子ども・若者の豊かな学びとチャレンジを応援するとともに、保護者へのサポートを充実します。

子育て世帯を経済面から支援する取組みとして、0歳児から保育料を無償とします。これは令和9年9月から実施します。中学校給食費の無償化により、保護者負担費をさらに軽減します。また、妊産婦タクシーや無痛分娩の費用を助成し、安心して子どもを産み育てられるようサポートします。

子どもたちが思い切り遊べる場所が欲しいという、多くの声をいただいています。安心安全な居場所として、放課後の学校において、子どもたちが主体的に体験し、学び、共に成長する機会を提供します。また、子どもたちが伸び伸びと遊べる公園や施設づくり、千里コラボ内への子育て支援センターほっぺ分室の開設、こども園のお昼寝コッ

ト導入による送迎負担の軽減など、子育てしやすい環境づくりを推進します。

小中学校では、グローバル人材を育むトップレベルの英語教育、最先端のAI・デジタル教育、わがまち豊中への愛着を育むふるさと教育を推進するとともに、学校施設の建替えを計画的に進め、子どもたちの学びの環境を充実します。

また、不登校の子どもたちの新たな学びの場となる、学びの多様化学校「彩葉（いろは）中学校」を来年4月に開校するとともに、不登校の相談・支援を包括的に担う、不登校相談支援センターを開設します。

さらに、成長戦略として、若者がそれぞれの個性に応じて活躍し、自分らしく生きられる場があるまちづくりを進めるため、若者が市政に関するテーマについて議論し、市職員との共創により施策づくりを行う「（仮称）豊中みらい共創チーム」を設置します。

また、未来を担う若者たちのチャレンジを後押しし、活躍を応援するとともに、大学等の奨学金の返還を支援します。

〔2. まちづくり政策〕

二つめは、「憩い・潤いで満たされるまち」です。

豊中に住む魅力は、都市の利便性と住環境が調和した上質な都市空間にあります。この強みをさらに磨きあげ、誰もが出かけたくなる、快適でにぎわいのある、ワンランク上の都市空間づくりを進めます。

曽根駅周辺は、新たな観光スポットとなった豊中つばさ公園『ma-zika』と、府内有数の広さを誇る服部緑地を結ぶ、東西軸の中央に位置し、文化・スポーツ施設が集積するエリアです。その特性を活かし、文化・健康ゾーンとして、豊島公園の大幅なリニューアルとあわせて、（仮称）中央図書館や子ども・子育て支援、公民館などの機能との相乗効果により、新たな価値を生み出す公共施設を、市民のみなさんと一緒に創りあげていきます。

この取組みは、曽根エリアの特性と相俟って、多くの人を惹きつけ、呼び込む、新たな豊中ブランドを創造する可能性を有しています。そうしたまちの将来像について市民のみなさんとの対話を重ね、地域全体のまちづくり構想を早期に策定します。

南部地域では、神崎川駅を豊中の南の玄関口にふさわしい拠点として生まれ変わらせていきます。駅を橋の上に移設して豊中側にも改

札口を設け、駅前広場を整備するなど、地域資源を活かしたまちづくりに向け、府や大阪市、民間事業者と共に取組みを進めます。

このほか、学校跡地の活用や庄内駅周辺の整備に取り組み、地域全体の活性化をさらに推進し、豊中全体へ波及させていきます。

豊中は、全国でも屈指の交通利便性の高いまちです。地域の身近な交通手段として、自動運転EVバスの走行を公民連携で進めます。乗合タクシー「Mina Notte(みなのもっと)」を坂道の多い地域にも展開するなど、外出をより便利で快適にサポートします。また、買い物や通院など日常生活における“ラスト・ワンマイル”の移動についても、地域資源を活かして支援する仕組みをつくります。

地域のみなさんが憩える快適な公園づくりに向け、大改革を進めます。カフェの誘致をはじめ、小学校区に一つのボールパークの設置や機能特化型の公園づくりに取り組みます。さらに、上質な空間づくりの一環として、歩道やオープンスペースにおいても、公民連携で花いっぱい大作戦を進め、花と緑あふれる潤いのある空間を演出します。

また、スマイルクリーン条例を改正し、路上喫煙禁止の強化と分煙環境の整備も同時に進めます。

ペロブスカイトなど次世代型太陽電池の導入や、家庭の廃食油を航空燃料にリサイクルする取組みなど、本市の地域特性を踏まえた脱炭素社会への取組みを進めます。

〔３．防災・健康・共生政策〕

三つめは、「誰もが自分らしくいきいきと過ごせるまち」です。

暮らしの安心感や幸福感を高めるためには、心身の健康や地域とのつながりを保つことが重要です。性別や年齢、障害の有無などに関わらず、一人ひとりがお互いを尊重し合い、誰もが住み慣れた地域で安全に、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

まず、防災対策です。南海トラフ地震や上町断層帯地震の新たな被害想定が示されています。災害に備え、上下水道や道路など都市インフラの強靱化に計画的に取り組むとともに、避難に際し、支援の必要な方の個別避難計画作成や、民間事業者との連携による福祉避難所の確保など、個別サポートを充実します。また、危機管理機能をさらに高めるため、災害時の司令塔として、災害対策を統合的に運用する危機管理センターを整備します。

さらに、消防については、これまで取り組んできた地域や近隣自治体、市立豊中病院との連携を深化させ、防災力を高めるとともに、消

防・救急救命体制を強化します。

健康づくりについては、健診や予防接種のデータを活用して疾病の早期発見や重症化予防につなげるほか、AIを活用した相談・啓発の仕組みづくりなど、より効果の高い健康支援を進めます。これまでのヒアリングフレイル対策に、「聴こえ」の低下でお困りの方への補聴器購入支援を新たに加え、取組みを強化します。また、HPVワクチンの男性の接種費用を助成します。

市立豊中病院については、阪大病院、国立循環器病研究センターとともに三つの核を形づくり、圏域の医療を支える、急性期拠点病院の位置づけを確立します。引き続き、医療・経営の両面から変革に取り組み、収支黒字化をめざすとともに、施設の長寿命化に向けた投資を行います。

地域のつながりづくり・居場所づくりとして、現・介護予防センターをはじめ公共施設をリニューアルし、子どもから高齢者まで多様な世代が集い、交流できる場を創設します。また、地域のみなさんが行うボランティア活動にマチカネポイントを付与するなど、身近な地域での支え合いを促す仕組みをつくります。

地域で献身的に様々な活動をされているみなさんとお話ししていると、担い手不足は深刻であると実感します。豊中の発展・成長には「地域力」が不可欠です。地域力の持続性を確保するため、地域のみなさんに対話しながら、持続可能で自律的なコミュニティを再構築します。

また、子育て中の人やシニア世代が柔軟な働き方ができるデジタルマッチングの仕組みの整備や、高齢者の学びとつながりづくり、シングルマザー・ファザーへのサポート充実、ひとり暮らしの高齢者のペットの一時預かりなど、一人ひとりの状況に合わせて暮らしを支える仕組みを充実します。

〔４．都市魅力・活力向上政策〕

四つめは、「誇りと愛着のもてるまち」です。

豊中には、市民が誇りに思うまちの歴史や文化、産業、住環境、そして人の力があります。これらの資源を活かし、より大きく育てていくことで、まちの活力につなげます。

まちの活力を生み出すため、プロ・スポーツチームの誘致や、本市に拠点を置くプロ・オーケストラとの共創による、まちぐるみの音楽文

化の醸成に取り組みます。SNS の投稿や動画配信を強化し、本市の魅力や取り組みへの理解と共感を深めます。さらに、豊中を内外に売り込み、稼ぐ力とまちのブランド力を強化するため、営業・広報専門官を速やかに公募します。

何より地域経済です。公民学連携によるスタートアップ支援をはじめ、ふるさと納税制度における新たな返礼品開発や民間の投資を促す新たな仕掛けづくりにより、強い地域経済の基盤づくりに取り組みます。特に、積極的にデジタル活用を進めてきた本市ならではの、デジタルを活かした地域経済の好循環を生み出す取り組みも進めます。

さらに、本市ゆかりの企業との共創や、まちの魅力を全国に伝えるとよなかアンバサダーの任命により、豊中出身であること、豊中に住まうことが価値として認識される“豊中ブランド”を磨きあげていきます。アンバサダーは、10月の市制施行90周年記念式典に向けて、早期に任命します。

来年3月に、いよいよ豊中つばさ公園『ma-zika』が全面オープンします。『ma-zika』と他の魅力スポットを結ぶ、観光ルートもつくっていきます。

〔 5 . 経 営 改 革 〕

五つめは、「市民サービスをレベルアップ」です。

創る改革の根幹にあるのは、市役所自身の変革です。変化する市民ニーズや地域の課題に応じて、取組みも柔軟に変化させ、スピード感をもって進めていかなければなりません。

「書かない窓口」や「市役所に行かなくてもよい窓口」など、窓口サービスをより便利に快適に、レベルアップします。また、おくやみ窓口を設置し、ご親族がお亡くなりになった場合の手続きをワンストップで受け付けます。窓口全般の業務プロセスについても、社会や業務環境の変化を踏まえ、最適化します。

市民起点でサービスをより良いものに変えていくため、市民の共感を得ながら都市経営を進めるマーケティング組織を新設します。また、若者の市政参画や意思表明をこれまで以上に促進する新たな仕組みについて、当事者の意見を聴きながら構築を進めます。

組織運営にあたっては、外部人材の登用のほか、民間事業者等との人事交流や専門スキルを持つ副業人材の活用、企業や他の自治体との連携・共創に積極的に取り組み、組織力をレベルアップします。

また、歳入歳出の両面から財務マネジメントを強化するとともに、

公共施設等総合管理計画の見直しを進め、市有資産を経営的視点をもって有効活用します。

加えて、全部局を挙げて財源創出に取り組むことで、豊中の発展・成長に向けた都市経営の基盤を盤石にし、未来への投資を確実に進めます。

AIをはじめとしたデジタル技術は劇的に進化しています。デジタル先進都市として、最先端技術を徹底的に活用し、地域の課題解決と市役所業務の刷新に取り組みます。これに先立ち、先月、AI利活用推進チームを立ちあげました。外部の知見も取り入れながら、全庁的に取り組みを進めます。

以上、市政運営に対する所信の一端を申し述べてまいりました。

私が取り組む「創る改革」とは、単に古いものをやめる、壊すことを目的とした改革ではありません。この素晴らしい豊中のまちを、より良い形で未来に引き継いでいくために、変化を生み出し、価値を創りあげていく営みです。子どもたちの笑顔があふれる、元気いっぱい、幸せいっぱいの未来に向けて、憲法の理念や自治基本条例の原則にのっとり、一つひとつの政策の実現に全力で取り組んでまいります。

市議会議員並びに市民のみなさまには、なお一層のご支援とご協

力をお願い申し上げます。

本日ご提案いたしました補正予算案およびその他の諸議案につきまして、関係職員からご説明いたしますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。